2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [文化学園長野中学校] 担当教諭名[榎本 智恵子] (3年1組 21名)
相手国・地域[インド]
海外学校名 [Christ Nagar Higher Secondary School] 担当教諭名[Thomas Mani]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイルプロジェクト	20
	社会	SDGs研究、成果のまとめ、発表	20
	英語	プレゼンテーション英訳、交流	10

■作品に込めた想いについて教えてください。

題（テーマ）	「もったいない」 ～私たちの命の源泉、水は、あたりまえのモノではありません 酸素が必要であるように、水も必要～
メッセージ （相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ）	私たちの生命の源である水は、海や空によって世界とつながっています。山々を流れ、地下水となり、湧き出し、生き物を育んでいます。きれいな水資源を確保し、世界中に行き渡らせるためには、国境を越えた人間の協力が必要です。伝統的な文様にも描かれ、古来より大切にされてきた水を守りたいです。

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
異文化交流の楽しさだけでなく、難しさを学んだ。他者を理解することは、自分の価値観を疑ってみること、文化や風習を踏まえて相手の考えを想像することだと結論付けることができた。どうしたら伝わるのか、楽しんでもらえるのか、生徒たち自身が当事者意識をもって悩み、苦しむことで得るものが大きかった。 プロジェクトチームのメンバーの成長が特に著しかった。	相手の生徒たちとのコミュニケーションを十分に取ることが難しかった。これは、システムにも課題があるように感じた。限定的なフォーラムで教師同士がやり取りしても、生徒の満足度は上がらない。時間的な制約も多い中、生徒同士の学びあいを深める別の手段を見つけることができなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
昨年度、独自で行ったブータン交流の成功をイメージしており、うまくいかないことを受け止めるまでに時間を要した。なぜ、伝わっていかないのかを試行錯誤し、改善策を考えていくことで、歩み寄ろうと努力はできたと思う。「分からなくて当然」と納得するまでに時間がかかったが、悩み苦しんだ時間が成長につながった。	このプロジェクトに対する相手の目的を理解するまでに時間がかかり、うまくコーディネートできなかったと反省している。SDGsについての学習進度の差もあったため、落としどころを探ることが難しいプロジェクトだと感じた。思い描いたプロジェクトにはならなかったが、生徒自身が悩み苦しむ中から成長する姿を見られたことで、子どもの逞しさを知ることができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活　動　内　容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 ～ 11月	3つのグループに分かれて、日本紹介、環境保護活動紹介、水問題についてプレゼンを作成した。 インドについて深く知るために映画「パッドマン」を鑑賞した。 在留インド人の方にインタビューを行って、インドの学校について理解を深めた。	熱心に取り組んでいた。時間が限られる中で、最善を作り上げようと努力していた。 水問題を自分たちで調べる中で、マザーテレサの言葉に出会い、「習慣は世界を変えるのではないか」という結論を出すことができた。	総合 社会 英語
共有 相手と意見交換	7月 ～ 10月	プレゼンテーション作成 日本語の水問題に関する漫画を英訳し、同じ教材を使って学習しようとした。 掲示板を作成して、生徒同士の意見交換を試みた。	なぜ、相手校の生徒たちに、教師同士の決定が伝わっていないのか疑問に思っていた。どうしたら生徒同士で交流できるのかを考え、提案し続けた。フォーラムへの投稿に反応がなく、交流に行詰まりを感じていた。	社会 英語
融合 メッセージ作成	11月	メッセージのたたき台を作成し、ミーティングで相談した。 壁画に含めたいパーツを出し合い、デザインに反映した。	度重なる行き違いで、生徒たちはあきらめ始めていた。プロジェクトチームの頑張りと、クラスへの働きかけで、なんとか交流を行い、相手校からも「よかった」と言ってもらえた。	社会 総合
創造 壁画制作	11月	デザインに含めたいパーツを生徒から提案してもらい、それらとメッセージを融合させたデザインを考えた。 クラス全員で壁画を制作、折りづるを折って同梱した。	「楽しい」という生徒が多かった。何かに打ち込むことで、「青春だね！」という生徒もいた。コロナ禍の制限の中で、この活動ができることに喜びを感じていた様子だった。	総合
評価 振り返り 自己評価	1月 ～ 3月	プロジェクトチームが、東京大学にてプレゼンテーションを行った。 学習成果発表会に向けて、クラスで話し合い、全員参加のプレゼンを作成した。	東京大学の教授に「君たちはよい経験をした。これでいい」と言われたことで、自信をもつことができた。最後は、自分たちなりの結論を導き出し、成果発表ができた。	社会 英語 総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた　4:ついた　3:どちらともいえない　2:あまりつかなかった　1:つかなかった）

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	結局、相手校のしたかったことの理解が最後まで想像の域を越えなかったが、その「想像する」という行為自体が尊いものであったと思う。インドの良い面だけでなく、課題となる点を見つめることで、異文化理解の第一歩は踏み出せたように思う。
主体的に考え行動する力	5	プロジェクトチームのメンバーがクラスを引っ張り、自分たちで考え、行動できていたと思う。この主体性は、教師も目を見張るものだった。彼らの頑張りがクラスに伝わり、それを支えようとする生徒もいた。
批判的に思考する力 （客観的・論理的視点）	5	なぜ相手と食い違うのか、自分たちの何が足りないのかを考え、「こうしてみたらどうだろう」というアイデアを常に作り出すことができた。PDCAを繰り返し、試行錯誤して、苦しみながらも進むことができた。
多様な他者と対話・協働する力 （海外の相手と対話・協働）	3	教師同士で相談しながら決めたことが相手校の生徒に伝わらず、行き違っていることが多かった。教員を挟まず生徒同士で対話させたかったが、そういった手段が見つけられなかった。
想いを言葉や形にする力 （メッセージ作成・壁画制作）	4	デザインを考える段階で、相手校とのテーマ学習が未消化である感があり、メッセージからは少し離れたデザインになったように思う。ただ、いいものを作りたいという思いは強く、最初で最後のクラス協同の場面を作れたことはよかった。